（寫眞百十七）

（六）十八本目　柄止

注意　此の形は薙刀受太刀共に鞘に納めある心にて使ふべし。

（イ）柄止の構へ（流す）

（1）薙刀　オリシキの禮をなしたる處より左足から五歩引きて五歩目の左足にて一足ミなり、カヒ込みゐる薙刀の右手の前を左手にて持つミ同時に右足を少し引き石突を後へながして右手を薙刀の刄の少々したを持つて左手を胸の處へをく。

（寫眞百十八）

（1）受太刀　之もオリシキの處より左足から太刀を下段にして五歩引き五歩めの左足を引く時に一足ミなりて太刀を右手にて左脇に納めるミ同時に左足を少ゝ引く、右手は袴の相引の處を持つ。（寫眞一一七）

（ロ）三歩進む

（2）薙刀　五歩引く處より大きく左右左ミ三歩進めて受太刀が太刀を拔くミ同時に右足を大きく一歩進めて受の右手を押へる。

（2）受太刀　五歩引きたる處より大き

（寫眞百十九）

く左右左と三歩進みて右手を鍔元にかけて拔く處を薙刀で押へられる。互に三歩進みたる處にて「**エイツ**」と懸聲をして太刀を拔く時に互に「**ヤツ**」と云ふ。（寫眞一一八）

（八）甲手を押へる

（二）互に鞘より拔く事

（3）薙刀　太刀をおさへし薙刀を右足大きく一歩引くと同時に劍先を前より後へ倒して右手をのばし、左手を右手の前にかけ右足を左足の後まで

（寫眞百二十）

引くと同時に右手を左手の方へ薙刀持ちたるまゝ勢よく引くと同時に鞘を拔く、左手は輕くして居る。

（3）受太刀　輕く薙刀を引きたれば太刀を拔きて右足引き上段に構へる、互に鞘を拔く時に「**トー**」と云ふ。（寫眞一一九）

（ホ）足二本

（4）薙刀　鞘を拔きたれば右足を左足に寄せ交代して面を切る。

（4）受太刀　右足を左足に寄せ交代して足を受ける。互に「**エイツ**」と云

（寫眞百二十一）

ふ。（寫眞なし）

（5）薙刀　足を交代して面を切る。

（5）受太刀　足を交代して足を受ける。

互に「トー」と云ふ。（寫眞一二〇）

注意　薙刀二本目の足を切る時は右足を少し引く、大きく引かぬ樣に氣を付けるべし。

注意　受太刀右足を受ける時に右足大きく引かぬ樣にすべし。

（へ）突一本

（6）薙刀　受太刀の右足を切りたる時足の開が少きゆゑ左足進めるだけ進

めると同時に刃を左横にして胸の處を突く。

（6）受太刀　右足を引けるだけ引いて劍先を右の方へ倒し、互に「**エイッ**」と云ふ。（寫眞一二一）

（ト）殘心の事

（7）薙刀　右足より引くと同時に薙刀の刃を下に向けて殘心を示し、右脇にカヒ込む、足は一足となる。

（7）受太刀　左足を引くと同時に太刀を中段として殘心を示し下段にして足を一足となりて元に復す。

(十九) 十九本目　水車

(イ) 水車の横構へ（構へ）

(1) 薙刀　カヒ込みし薙刀の刃を上にして右足を引くと同時に脇より薙刀を取りて左手で石突の方を握り眼より三寸の處まであげて水平に構へる。

(1) 受太刀　中段より右足を引くと同時に太刀先を右の方へ倒して脇構へとなる「**エイツ**」と云ふ。

（寫眞一二二）

注意　受太刀は中段の時に「**ヤツ**」と云ふと同時に脇構へとなる。

（二十二百眞寫）

(ロ) 面一本

(2) 薙刀　構へた薙刀を上段にあげると同時に右足を左足に寄せて交代して正面を切る。

(2) 受太刀　右足を左足に寄せ交代して薙刀をかるくはねる樣にして面を受ける、互に「**トー**」と云ふ。

（寫眞一二三）

（三十二百眞寫）

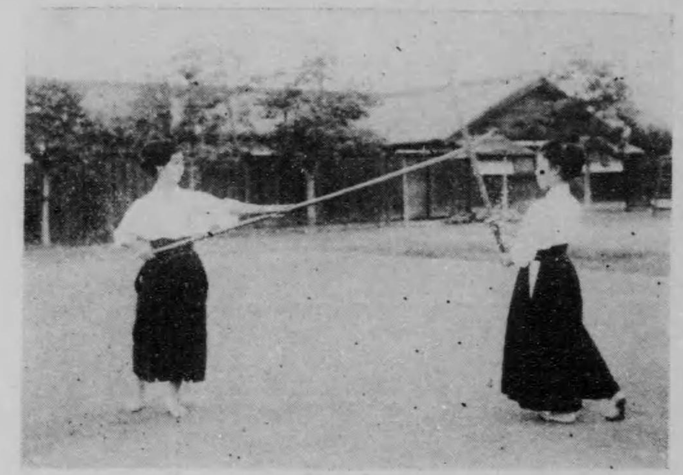
（寫眞百二十四）

（八）水車の振返の事

（3）薙刀　體は其まゝにて薙刀を人差指にてハサミ、右手を左手の方へ引くと同時に劍先をさげ左手を右手の方へ寄せて左足一歩引くと同時に薙刀を振返して左足を一歩進める。

注意　左足引く時は右足共に左足の處まで引いて腰を少しさげる。

（3）受太刀　面を受たる太刀をさげて劍先を右の方へ倒して振返す、互に「ヤツ」と云ふ。（寫眞一二四）



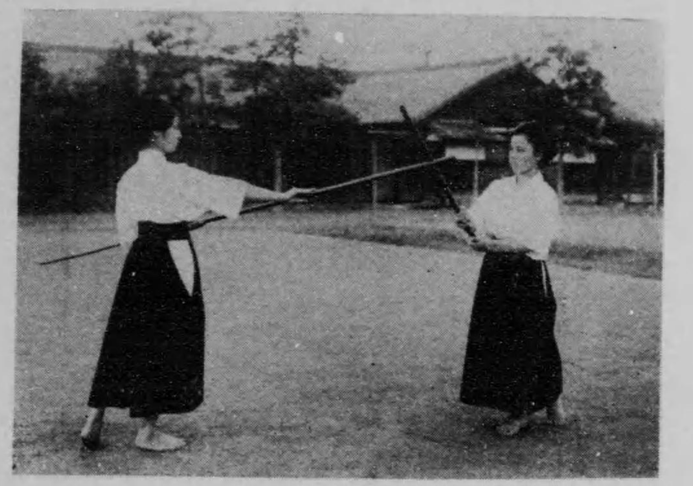
（寫眞百二十五）

注意　受太刀、薙刀振返す間は力をぬかぬ樣にすべし。

（二）面一本

（4）薙刀　前頁の寫眞の如くに振返し左足一歩進めると同時に正面を切る。

（4）受太刀　左足を右足に寄せ交代にして面を受ける、互に「エイツ」と云ふ。（寫眞一二五）



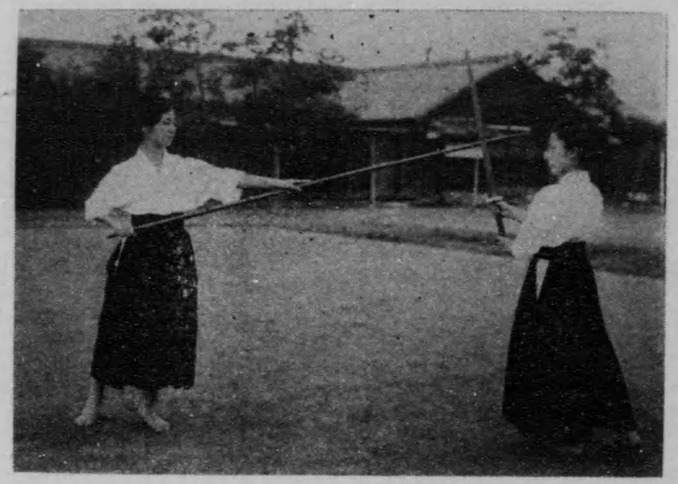
（寫眞百二十六）

（ニ）石突にて横面一本

（5）薙刀　左手は其のまゝにて右手にて薙刀を繰込む、又右手を左手の方へ寄せて石突を繰出し右足一步進めて横面を打つ。

（5）受太刀　左足を一步引きて石突を輕くをさへる、互に「**トー**」と云ふ。

（寫眞一二六）



（寫眞百二十七）

（ホ）横面一本

（6）薙刀　足を交代して薙刀を繰出し刃を横にして横面を切る。

注意　薙刀を繰出す時は左手を右手の方へ寄せて右手を石突の方へ引く。

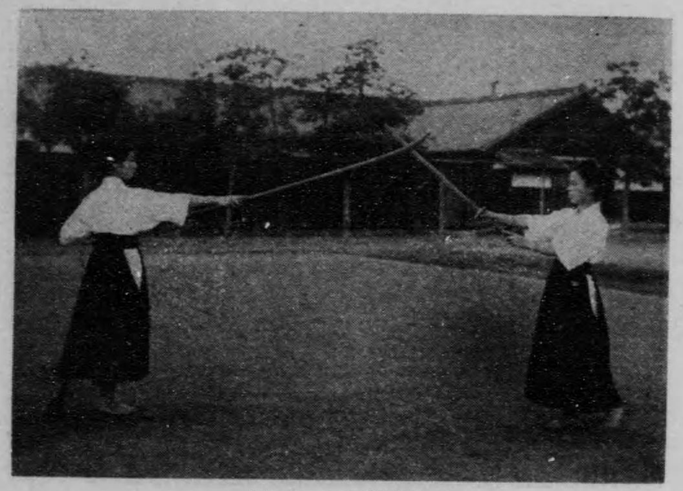
（6）受太刀　足を交代して體を少々横むきになして横面を受ける、互に「**エイツ**」と云ふ。

（寫眞一二七）

（へ）相打の事（面一本）

（7）薙刀　振返し足を交代して正面を切る。

（7）受太刀　足を交代して太刀を上段になすと同時に兩手を伸ばして薙刀の正面を切つて互に相打となる。互に「トー」と云ふ。（寫眞一二八）



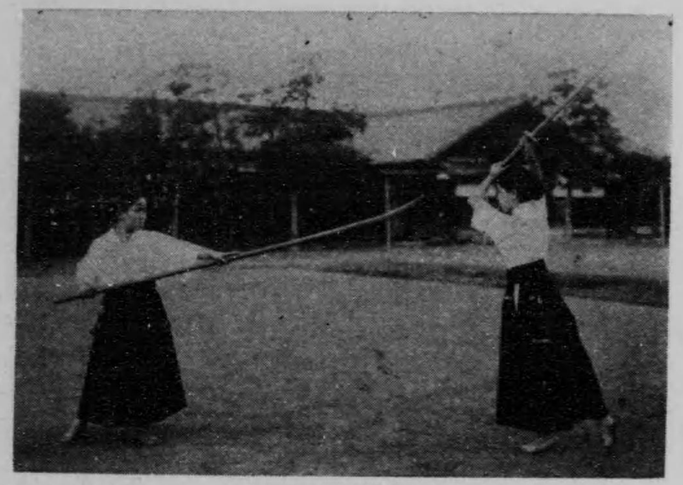
（八十二百眞寫）

（ト）殘心の事

（8）薙刀　左足より一歩引くと同時に右足共に左足の前まで引いて劍先を少々さげて殘心を示し左足を右足に寄せて一足となす、同時に劍先を

寄せて一足となす、同時に薙刀を右脇にカヒ込みて元に復す。

（8）受太刀　左足より一歩引くと同時に右足を左足の前まで引き兩手も引きて中段となして殘心を示し右足を左足に寄せて一足となす、同時に劍先をさげて下段になして元に復す。



（寫眞百二十九）

（三）二十本目　拔止

（イ）拔止の構へ（中段の構へ）

（1）薙刀　左足を少々引きて中段の構へとなす。

（1）受太刀　中段より右足少々引き上段に構へて「ヤツ」と云ふ。

（寫眞一二九）

（寫眞百三十）

（ロ）足一本

（2）受太刀　上段より右足一歩大きく進め、左足共に右足の後まで進めて薙刀の正面を切る。

（2）薙刀　受太刀が面にくる時右足大きくナヽメ前に進めると同時に、左足も共に右足に寄せて兩足の膝を開き腰を少々さげ薙刀を持ちたる兩手は其まゝにて刄を受太刀の方へ向けて薙刀を少々右の方へ引く心持にて兩手を前へ伸ばして受の右足を切る互に「エイツ」と云ふ。（寫眞一三〇）

（寫眞百三十一）

（八）甲手一本

（3）受太刀　面を切りたる太刀を上段に構へると同時に右足をナゝメ後に引く、左足も共に右足の前まで引く。

（3）薙刀　受太刀が上段になして引く時に左手を上に伸ばして左足一歩大きく進め右足共に左足の後まで進めて受の左手の動脈を上より切る、互に「トー」と云ふ。（寫眞一三一）

（二）殘心の事

（4）薙刀　右足を大きく引きて劍先をさげて中段となし、殘心を示し薙刀をカヒ込んで元に復す。

注意　右足引く時は左足共に右足の前まで引く。

（4）受太刀　左足を引いて太刀を中段となして殘心を示し右足を左足に寄せ一足となし太刀を下段にして元に復す、互に元の位置に歸る。

（寫眞百三十二）

（三）懷劍の形一本目

注意 懷劍の形は切る手がすくなきゆゑ力を抜かぬ樣にして靜になすべし。

（1）互にオリシキの禮をなしたる處より左足より五歩引き五歩目の左足を右足に寄せ一足となす。（寫眞なし）

（2）打太刀　五歩引きたる處にて左足を少々引きて太刀を中段に構へ右足より大きく三歩進めて右足を引き太刀を上段に構へて「**ヤツ**」と云ふ。

（寫眞百三十三）

（3）打太刀　上段より右足大きく一歩進め左足共に右足の後まで寄せて兩手を伸ばして面を切る、同時に左手をはなして右乳下にをく。

（3）仕太刀　打太刀が面に來るゝ同時に懷劍を拔き左足大きく一歩進め右足

（2）仕太刀　五歩引きたる處より大きく右足より三歩進め、懷劍の柄に右手をかけ左手は懷劍をさしたる處にかける。

（寫眞一三二）

注意 懷劍は袴の紐にさしてをく、兩手は袴の相引の處を持つ。

（四十三百眞寫）

も共に左足の處まで進め左手にて太刀の右手を下より上げ右乳下を突く、互に「**エイツ**」と云ふ。（寫眞一三三）

（4）打太刀　右左と二歩引き太刀を中段にし殘心を示して右足を左足に寄せ一足となし元に復す。

（4）仕太刀　左足を引き懷劍を納めながら殘心を示し足を一足となして元に復す。（寫眞一三四）

（五十三百眞寫）

（三）懷劍二本目

（1）仕太刀　禮をなしたる處より五歩引きたる處から大きく左右左と三歩進む。（寫眞參照）

注意　禮をなしたれば右手を懷劍の柄頭にかけ拔きて懷劍のムネを右手の方へ向ける。寫眞の足はまちがひなり。

（1）打太刀　禮をなしたる處より太刀を下段にし五歩引きたる處にて中段となし右足より大きく三歩進む。（寫眞一三五）

（寫眞百三十六）

（2）打太刀　中段より右足を引きて上段に構へて「**ヤツ**」と云ふと同時に右足一歩進め兩手を伸ばして面を切る。

（2）仕太刀　右足を打太刀の右足の向に進め左足共に進めると同時に左足を折敷き右足を立て太刀の右脇を突く、互に「**エイツ**」と云ふ。

（寫眞一三六）

殘心の事

（3）打太刀　右左と二歩引きて太刀を中段にして殘心を示し右足を左足に寄せて一足となし太刀を下段にして元に復す。

（3）仕太刀　右左と二歩引きて懷劍を納めながら殘心を示し右足を左足に寄せて一足となして元に復す。

（七十三百眞寫）

（三）懷劔三本目

（1）打太刀　五歩引きたる處にて中段に構へ右足より三歩進みて右足引き上段に構へて「**ヤツ**」と云ふと同時に仕太刀の正面を切る。

（1）仕太刀　懷劔を抜きて五歩引きたる處より、右足より三歩進み打太刀が面にくると同時に右足を左足の後へ引く、互に「**エイツ**」と云ふ。

（寫眞一三七）

（八十三百眞寫）

（2）打太刀　左足一歩進めて仕太刀の胴を切る。

（2）仕太刀　左足を引き懷劔の刃を打太刀の方へ向けて胴を受ける。互に「**トー**」と云ふ。（寫眞一三八）

注意　胴を受ける時に太刀を打太刀の左の方へはらふ樣にして受ける。

（寫眞百三十九）

互に「エイツ」と云ふ。（寫眞一三九）

（3）打太刀　右足一歩進めると同時に上段になす。

（3）仕太刀　打太刀が太刀を上段に構へなほす時に左足一歩大きく進め左手にて打太刀の右手を上げて右脇下を突く、

殘心の事

（4）仕太刀　右左と引きて懷劍をおさめながら殘心を示し右足を左足に寄せて一足となして元に復す。

（4）打太刀　右左と二歩引き太刀を中段にして殘心を示して下段になし右足を左足に寄せて一足として元に復す。

（寫眞百四十）

（三）懷劍四本目

（1）互に禮をなしたる處より兩者共に左足から五歩引きて一足ミなる。

（2）仕太刀　懷劍を拔き五歩引きたる處より右足から三歩進み四歩目の左足にて一足ミなす、打太刀が面を切りにくる時左足引き懷劍のシノギで太刀を拂ふ。

（2）打太刀　太刀を下段にして五歩引きたる處にて中段ミなし、右足より大きく三歩進み右足少し引き上段に

（寫眞百四十一）

構へ「ヤツ」ミ云ふミ同時に面を切りて太刀をはらはれる。互に「エイツ」ミ云ふ。

（3）仕太刀　太刀をはらひたれば左足大きく進めるミ同時に打太刀の右手を上から肱の關節を持ちてカタの處まで上げ右乳の下を突く。

（3）打太刀　面を切りたる太刀をはらはれたる故構へを變へる心にて劍先を右の方へ引く處を仕太刀に突かれる、足は面を切りたるまゝにしてる、互に「トー」ミ云ふ。

（寫眞一四一）

注意　打太刀　構へをなほす時に仕太刀が進みくる故左手を柄頭よりはなして右乳の下をうける。

殘心

（4）仕太刀　左足を引きて殘心を示しながら懷劍をおさめる、右足を左足に寄せて一足ミなして元に復す。

（4）打太刀　右左ミ二歩引き太刀を下段にして殘心を示し仕太刀が一足になすミ同時に右足を引きて一足ミなし元に復す。

（寫眞百四十二）

（三）懷劍五本目

（1）仕太刀　懷劍は袴にさしたるまゝ、五歩引きたる處より大きく左足より三歩進む、兩手は袴の相引の處を持つ。

（1）打太刀　五歩引きたる處より太刀を中段にして大きく右足より三歩進み右足を少し引きて上段に構へ、互に「ヤツ」ミ云ふ。（寫眞一四二）

（寫眞百四十三）

（2）仕太刀　打太刀が面を切りにくるゝ同時に左足を引きて右手を懷劍の柄頭にかける。

（2）打太刀　上段より「**ヤツ**」ゝ云ふゝ同時に右足を一歩進めて正面を切る、互に「**エイツ**」ゝ云ふ。

（寫眞一四三）

（寫眞百四十四）

（3）仕太刀　胴を切りにくるゝ同時に懷劍を抜き刄を打太刀の方へ向けてシノギて胴を受ける、體は其のまゝ、

（3）打太刀　體は其のまゝにて太刀を少し上にあげるゝ同時に刄をむけかへて胴を切る、互に「**トー**」ゝ云ふ。

（寫眞一四四）

（寫眞百四十五）

大きく一歩進めて横面を切る、互に「エイツ」と云ふ。（眞眞一四五）

（4）仕太刀　打太刀が横面を切りにくると同時に左足を大きく一歩進める、同時にオリシキて打太刀の左乳の下を突く。

（4）打太刀　胴を切りたる太刀を上段に兩手を伸ばして左足を

殘心

（5）仕太刀　左足引くと同時に左手を袴の紐にかけて殘心を示しながらおさめる右足引きて一足となして元に復す。

（5）打太刀　左右を引きて太刀を下段にして殘心を示し右足を引きて一足になして元に復す。

第八章　薙刀の精神（奥義）

稽古をば勝負するぞと思ひなし　勝負は常の稽古なるべし
雲霧は只中空の轉變ぞ　うへは常住すめる日月
ふき用ゐ人はいふとも稽古せよ　き用斗はいかに有るべき
理は業の中に有こそ實の理　理業ふたつの物にてはなし
吹く風も雲もあられも咲く花も　つとむる業の工夫ゐはなる

體育としての薙刀　終

體育としての薙刀
附　奥

著作　新井つた
所有權

大正十四年七月一日印刷
大正十四年七月八日發行

【定價貳圓參拾錢】

著作者　新井つた
發行者　永田與三郎　大阪市東區上本町一丁目一三番地
印刷者　瀧本恭治郎　大阪市西區阿波座下通二丁目三六番地
製本所・圖書製本所

發行所　東洋圖書株式合資會社
大阪市東區上本町一丁目一三番地
東京市神田區表神保町二番地
奈良市南半田西町一三番地
（直接註文一手取扱）
大阪市東區上本町一丁目
振替穴阪三九五五六番

大賣捌所
（東京）共同書籍・東京堂
（名古屋）川瀬・星野
（佐賀）大坪書店
（大阪）實文館・盛文館
（京都）京都書籍・東枝・博省堂
（久留米）菊竹書店

◀學習法各論の代表書◀

好評嘖々

幾尾式カード教師用

奈良女高師 幾尾純先生編
定價 〇・六〇
送料 〇・〇六

忽三版

兒童藝術粘土彫塑と木彫

奈良女高師 横井曹一先生著
定價 一・五〇
送料 〇・〇八

忽四版

體育學習の實際

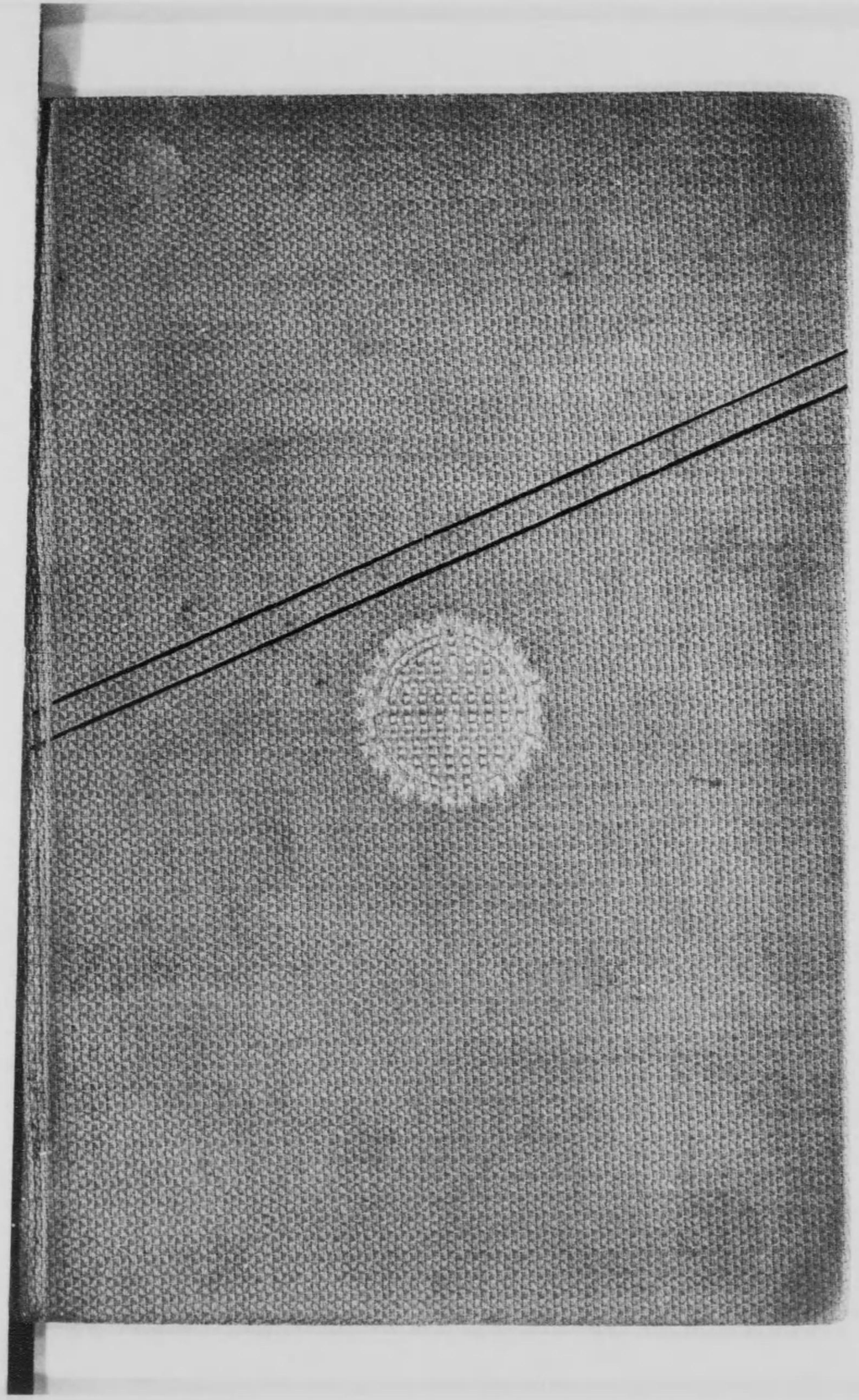
奈良女高師 川口英明先生著
定價 二・六〇
送料 〇・一六

最新刊

教育ダンス

奈良女高師 内田トハ先生 御笹政重先生共著
定價 二・八〇
送料 〇・一六

東京・大阪 東洋圖書株式合資會社 發兌
(直接註文一手取扱) 大阪市東區上本町一丁目・替振大阪三九五五六番

276
354

終